

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090600012		
法人名	社会福祉法人 諏訪福祉会		
事業所名	かりんの里複合福祉施設 グループホーム かりん		
所在地	長野県諏訪市高島1-11-1		
自己評価作成日	平成22年4月30日	評価結果市町村受理日	平成22年9月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2090600012&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マズネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市市上13-6
訪問調査日	平成22年5月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は、上諏訪駅に近い立地で、面会の方が施設に来訪しやすい環境である。また、諏訪湖や高島城といった諏訪地域に馴染みの場所がすぐ近くにあるため、地域の祭りに参加するなど、気軽に出かけることができ、住み慣れた環境を生活の中で感じられる。
複合福祉施設内に事業所があるため、併設しているユニット型地域密着型特養及び認知症対応型通所介護事業所との交流が盛んで(共同のカラオケ大会・運動会・餅つきなど)外部はもちろんのこと、内部で他者との交流が積極的に行える環境である。スタッフについても併設している事業所の専門職(管理栄養士・歯科栄養士)より指導を受け、栄養管理や口腔ケアにも力を入れ取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人が経営する老人保健施設に隣接した複合福祉施設(1階にデイサービス・地域密着型特養が1ユニット、2階に地域密着型特養が2ユニット)の3階にあるグループホーム(2ユニット)で、これまでの経験から得たノウハウを総合的に取り入れて事業所作りを行なった。広く、採光や眺めの良い清潔感のある居室、身体機能が衰えても使えるリフト付きの個浴で、何時でも入浴できる態勢、課題分析から評価までの流れや、記録を含む取り組みの良い介護計画作り、法人職員である歯科衛生士にも相談や指導を受けられる態勢、多くの委員会による利用者へのより良いケア作り、複合福祉施設の管理栄養士による多彩で楽しめる献立作り、災害時の同経営事業所等の協力支援体制など、複合であるメリットを十分に活かすと共にグループホーム独自の創意と工夫が施されていた。利用者の思いを尊重し、その思いを実現することを大切なケアと考えている、前向きな職員の姿勢が感じられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(あやめ)					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
ユニット名(かりん)							
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心のふれ合いと笑顔を大切に」という理念を、各ユニット・正面玄関へ施設理念を掲示している。又施設内研修会でも理念について考える時間を設けている。配属される新入社職員にもオリエンテーションにて施設理念に対するグループワークを行っている。	地域密着型特養・デイサービス・グループホームの3事業を展開している複合福祉施設全体の理念を掲げ、介護が必要になっても、地域の中で、その人らしい生活が送れるよう支援している。理念を玄関等に掲示したり、各種の集まりには挨拶に盛り込むなど、外に向かって事業所がめざすサービスのあり方を理解してもらえよう努めると共に研修会等を通じて職員への共有化も図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館が施設の正面にあるため、地域のイベントに参加させていただいている。又ボランティアの方にも多く来ていただき、レクリエーションなども共同で実施している。	自治会に加入し、地域行事の参加や、地区の子供たちとの交流も行われ、散歩時に近隣住民と挨拶を交わすなど、親しく地域とつながろうとしている。市役所の新人研修の場としての利用や福祉大学の実習生の受け入れ、ボランティアも多く訪れるなど双方向的な付き合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生や行政職員の研修・実習や民生委員の見学等積極的に受付けている。又、施設長自らが、実習担当として福祉大学校の実習指導者や講師として、介護学生の育成に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議時には、グループホームで行っている活動内容やアンケート結果等を報告させていただき、委員の皆様よりいただいた意見をサービスに活かしている。	2ヶ月に1度開催され、地域・行政・家族等が構成委員となり、活発な意見交換が行われている。アンケート結果、要望や苦情、その対応状況、夕食の試食会などありのままの事業運営が透明性を持って議題として提出されている。今後の課題としては主役である利用者の参加、議事録の公表を望みます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者や広域連合の担当職員と、必要に応じて細かい連絡を取っている。そのため、市役所の新人研修の研修施設として提供している。	広域連合の事業所連絡会に出席したり、機会ある毎に市の担当者との連絡を行い、事業所の現状を理解してもらえよう努めたり、地域のニーズを把握したりして良好な協力関係を築いている。介護相談員の派遣事業への協力も行い、年3回の受け入れを行った。	

外部評価結果(グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会中心に、拘束廃止に取り組んでいるが、施錠についてはまだ取り組めていない。	運営規程や契約書等に「身体拘束をしないケアの実践」を明文化し、拘束委員会でも検討し、抑圧感のない暮らしを支援するよう努めている。各ユニットの玄関は施錠されているが、利用者の思いにそって、いつでも外出できる対応をするとともに見守りや連携プレーを大切にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	他施設で行われた虐待例を挙げ、職員に周知している。又、日々の業務の中でも虐待が見過ごされることがないように、スタッフへ周知し、虐待予防に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護等を学ぶ機会はまだまだなく、管理者・職員ともに今後、理解を深めるために、勉強会などの学ぶ機会を設ける必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけ、利用者・家族が納得できるよう十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に苦情・要望受付箱を設置し、苦情等があった場合には、改善案を話し合い、回答を掲示している。 1年に1度、ご利用者様満足度調査アンケートを実施し、アンケートについての回答も掲示している。	苦情受付箱、満足度調査など利用者やご家族の思いや意見を伺う環境を作り、意見には速やかに検討・対応し、結果の掲示も行っている。法人全体の「かりん新聞」を毎月、複合施設独自の通信を隔月に発行し、利用者の日頃の暮らしの様子を伝えている。又、面会時や電話などで利用者の様子を話し、ご家族の安心を得るよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回施設長がスタッフの面談を行い、意見や悩み事を聞いている。また、月1回行われる勉強会にも参加し、職員の思いを聞いている。	施設長との年1回の個人面談や毎月行われる勉強会を通じて職員の思いや意見を聞いている。管理者は職員の様子を見ながら意見や悩みを聞くよう努めている。 2ヶ月に1度行われる幹部会議で職員の努力や実績を評価して、やりがいや向上心を引き出す工夫もしている。22年度からは職員が目標を設定して、その達成状況を確認するための気付きやアイデアが活かされる環境を作ろうとしている。	

外部評価結果(グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回、幹部会議を開き、営業実績の報告を行い、口答ではあるが努力や実績を評価している。 又、パート職員から正社員への昇格もやっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で行う、施設内研修や複合施設で行う研修を立案し、職員教育には力を入れている。 又、外部研修にも参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人での交流会があるが、他施設で運営されているグループホームとは交流が少ない。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人との面談を必ず行い、困っていること、不安なことを聞くように努めている。又、入居後も話をしやすい雰囲気を作り、本人の不安軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と必ず面談を行い、今困っている事を聞き、入居後の対応について相談している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には、利用者・家族が当事業所を必ず見学していただくようにしている。又本人がその時暮らしている所での面談を行い、当事業所での対応が可能か判定会議を経て入居していただいている。		

外部評価結果(グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の生活歴や得意なことが発揮できるよう努めており、調理などの場面では、職員が教えていただくという姿勢を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで、日常生活の様子を細かく家人に伝えるようにし、面会時には、ゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人とのコミュニケーションや家族の情報の中から、馴染みの場や人の理解を深め、継続した付き合いが出来るよう努力している。友人等の面会があった際には、また来ていただけるよう、職員が声をかけるようにしている。	友人や近所の人との面会があったり、ご家族による墓参り、職員の付き添いによる買い物や外食等も行われ、これまでの暮らしの継続性を維持していくよう支援している。手紙や年賀状の支援もしているが、返事を出さない利用者も居る。ご家族の了解を得ながら、職員の援助(写真等の活用)により、これまでの付き合いを繋げるよう支援することも一考かと思われる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間でのトラブルにならないよう配慮を考慮したり、コミュニケーションの間に職員が介入するなど、孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動された方へ手紙を書いたり、家族に近況を伺うなど連絡をとっている。退居時にはこちらでの生活の様子を伝え、困ったことがあれば相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、本人の希望を聞き出す努力をしている。希望に沿えるよう職員で話し合い、実現に向けてよう努力している。	フェイスシートにより利用者の生活歴や趣味、得意分野を把握し、日々の関わりの中や話し易い雰囲気作りをしながら、思いや意向を聞き出すよう努めている。モップ拭き、縫物、座布団作りなど利用者の力が発揮できるようなことを見つけて、その人らしい生活が送れるよう支援している。	

外部評価結果(グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談の中で本人の生活歴・趣味・今までのサービス利用の経過など必ず聞き、本人の力が発揮できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を大切にし、職員間で情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の変化がある時にはカンファレンスを適宜開き、介護計画の見直しを行うようにしている。家族との話し合いの場が少ないので、今後は家族カンファレンスを多く持ち、職員の一方向的な計画にならないようにしていきたい。	センター方式を活用して課題分析を行い、カンファレンスを通じて計画作成担当者が介護計画を作成している。プランも3~4項目と、実現可能で職員が共有しやすい数としている。利用者の担当職員が中心となり、月に1度実施状況の把握をし、3か月に1度モニタリング・評価が丁寧に行われ、介護計画の見直しをしている。変化のある時はその都度カンファレンスを行い、臨機応変の見直しをし、現状に即した計画となっている。ご家族等の思いや意向を、さらに加えた介護計画作りを目指している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を大切に職員間の情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族のニーズに応じて、通院介助・送迎に応じている。訪問リハビリを受けている方もいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	広域職員・市町村職員・民生委員・ボランティアの方とは、運営推進会議を通じて情報交換を行っている。近くに図書館があるため、出かけることも多い。		

外部評価結果(グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の希望するかかりつけ医に、受診・往診できるよう努めている。必要時には受診の付添にも対応している。	利用者やご家族の希望するかかりつけ医となっており、受診の付き添いは基本的にはご家族となっているが、職員が代行したり、往診対応することもある。22年度中には医療連携体制も整える計画である。法人内に歯科衛生士がおり、協力医療機関も近くにあり、適切な医療の受けられる環境が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、状態変化や体調変化は看護職に報告・相談するようにしている。介護職が小さな変化に気づけるよう観察のポイントなど、看護職より指導している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはこちらでの生活の様子を病院へ必ず知らせ、退院後も極力同じ生活が送れるよう、依頼している。退院に向けた話し合いを医師・看護師・家族・管理者で必ず持つようにしている。入院中の様子は家族連絡や面会を通じて把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所が今できる対応について説明を行っている。又、現在重度化指針を作成中。	現在、重度化に向けた対応の指針を作成中であり、終末期については、医師等の協力支援体制が整わないので、検討中である。ご家族には事業所の現状を説明してある。	重度化や終末期の対応は利用者、ご家族、これから利用しようとしている方にとって大きな関心事である。事業所としてどんなグループホームにしていきたいのかを十分に検討し、事業所として出来ること、出来ないこと、医師等の支援体制、職員体制(力量)、ご家族の協力等を精査して現段階での事業所の重度化への対応の姿勢を示すことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時のオリエンテーションで看護師から緊急時の対応について学ぶ時間を設けている。また研修会の中でも緊急時の対応について学ぶようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と水防訓練を実施している。入社時のオリエンテーション・勉強会でも防災について学ぶ機会を設けている。地域との協力は運営推進会議で依頼している。	災害対策マニュアル、スプリンクラー等の防災設備、年2回(昼・夜想定)の避難訓練、年1回の水防訓練、消火器や消火栓の取り扱い訓練など防災への備えは充分に出来ている。さらに複合施設全体で夜間は5名の夜勤者、近くには同法人経営の老健、地域の協力もあり、協力支援体制も整っている。	2ユニットのグループホームが複合福祉施設の3階にあり、避難は外階段の利用となり、利用者にとっては困難が多い。消防署と十分に話し合い、災害時に適確に避難誘導できる方法を検討し、職員が安心して、自信を持って業務に専念できるようになることを期待します。なお、非常口の段差の解消を望みます。

外部評価結果(グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は人生の先輩であるということを前提に一人ひとりの尊厳を守り、声掛け・対応には注意を払っている。 職員入社時には、守秘義務について説明、同意を得ている。	運営規程や契約書に守秘義務を明文化し、職員の意識の共有化を徹底し、個人の書類は鍵の掛かる保管庫に収納している。利用者の生活スタイルを尊重しながら、言葉かけに温かさを感じられるよう努めている。日頃の職員の言動については管理者がチェックするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出かける場所や食べたいものなど、職員の一方向的なものにならない様、自己決定・自己選択の場面を設けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課は決まっているが、食事の時間や入浴時間など本人の希望になるべく沿えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時に衣類の選択や外出時の化粧など、本人の生活スタイルを尊重し、対応している。 訪問美容師により、カラーやパーマなどの希望にも応えられるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・片づけは利用者と一緒にやっている。嫌いなものについては調理法を変え、少しでも食べていただけるよう努力している。 職員も同じメニューの食事を一緒にとることで、食卓の雰囲気づくりに努めている。	台所は利用者が手伝うには若干狭いが、調理・盛り付け等は工夫しながら、出来る範囲で職員と共に行っている。献立は複合施設の管理栄養士が作成し、食材も発注し、調理は事業所で行っている。利用者の希望する献立は、給食委員会を通じて取り入れるようにしている。全国の郷土食、鍋・プレート、手作りおやつシリーズと多彩な献立をしており、食事を楽しめるよう工夫されている。又、歯科衛生士に相談や指導を受けられる体制があり、楽しく食事の出来る側面も出来ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは管理栄養士に作成していただき、栄養バランスのとれた食事の提供が行われている。又、利用者の希望も取り入れてもらえるよう、委員会の中で提案している。		

外部評価結果(グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔内の状態・ケア方法を歯科衛生士と相談しながら、一覧にまとめ、統一した口腔ケアが行えるよう努めている。一日一回は口腔内を確認し、異常時には歯科衛生士と相談し、歯科受診などの対応が早期にできるよう努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、個々の排泄パターンの把握に役立てている。排泄パターンのもとに自尊心を傷つけないようさりげない誘導を心掛けている。	「トイレで排泄する。」ことを大切なケアと位置付け、排泄に関しての羞恥心や不安を軽減する配慮をしながら、排泄パターンにそった、トイレ誘導や声掛けをして、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操・水分補給に努めている。なるべく下剤に頼らない様、オリゴ糖の使用など個々に合わせた対応を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を優先し、曜日などは決めず対応している。土地柄、大きなお風呂を好む方には、大浴場での入浴も行っている。ただし、早朝・夜間入浴は行えていない。	希望により、何時でも(実績としては、1人週2～3回、1日3～4人)入浴できる態勢となっており、リフトも使える個浴利用を基本とし、複合施設のデイサービスの大浴場を利用する方も居る。入浴拒否者も居るが、介護計画に盛り込みながら、声掛けなどの工夫をして対応している。干したみかん、リンゴ、ゆず湯などの季節感のある楽しみも取り入れている。浴室は広く、明るい季節によっては寒さを感じることもある。広い壁面を入浴が楽しめるよう工夫されることを望みます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡など本人の生活習慣に合わせて対応している。 寝付けない方には、職員と一緒に温かい飲み物を飲む等の工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬のファイル・お薬手帳の作成をし、全職員が確認できるようにしている。 内服薬の変更時には、注意点・観察点など看護職より説明してもらい、介護職は観察点を看護職へ報告するようにしている。		

外部評価結果(グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や特技を活かした、余暇時間が過ごせるよう努めている。 全体としては季節を感じていただけるよう、季節に合わせた行事を大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会を多く持てるよう心掛けている。外出報告書を作成し、行先や参加者が偏らない様にしている。 個々の希望に応じて、1対1での外食の機会などを増やしていきたい。	毎日でも外出したい利用者も居るので、外出報告書を作成して、偏りのない工夫をしている。職員の配置もあるが、全ての希望を実現することは難しいため、花見、いちご・りんご・紅葉狩り、観光地などへの外出、事業所周辺の散歩など気分転換や五感の刺激となる機会が多くなるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて、少額のお金を持っている方もいる。事業所で管理している方も、買い物の際には、今まで使っていたお財布から、自分で支払うようにしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話がかけられるよう配慮している。携帯電話の使用をしている方もいる。 手紙が来た時には、本人と相談し、返事が書けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	刺激になるような音や光などはないが、生活感に欠けるところがある。利用者が作成した季節ごとの装飾品や植物を置き、季節感を出すよう工夫している。	居間兼食堂は若干狭いが、採光や窓からの景色も良く、壁には利用者の作品や複合施設の通信が飾られ、一体のフロアとなっている台所の音や匂いが感じられ、落ち着いた暮らしの雰囲気伝わってきた。食事中は、テレビで話題作りをするユニットと、BGMが流れ昔話を中心に終わりそうもない会話を楽しむユニットと、それぞれにゆったりとした時間を過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースで、1人になれるような場所がないため、居室でくつろいでいただけるように、テーブルとイスを用意している。		

外部評価結果(グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・タンスは備え付けのものがあるが、入居時には使い慣れたものがあれば持ってくるようお話ししている。	ベッド、タンス、椅子、テーブルが事業所で準備した物であるが、利用者のご家族で自由な部屋作りをするよう話してある。多くの利用者は、そのまま備え付けの物を使用していた。馴染みの物として、仏壇、写真、時計、テレビ、飾り物等を持ち込み、自分らしく、居心地よく過ごせるよう配置されていた。居室は広く、採光も良く、窓からは高島城も眺められ、清掃もよく行き届いていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には名前の書かれた表札を貼ったり、トイレの表示を大きくするなど、1人でも迷わずに行きたい場所に行けるよう工夫している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心のふれ合いと笑顔を大切に」という理念を、各ユニット・正面玄関へ施設理念を掲示している。又施設内研修会でも理念について考える時間を設けている。配属される新入社職員にもオリエンテーションにて施設理念に対するグループワークを行っている。	地域密着型特養・デイサービス・グループホームの3事業を展開している複合福祉施設全体の理念を掲げ、介護が必要になっても、地域の中で、その人らしい生活が送れるよう支援している。理念を玄関等に掲示したり、各種の集まりには挨拶に盛り込むなど、外に向かって事業所がめざすサービスのあり方を理解してもらえよう努めると共に研修会等を通じて職員への共有化も図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館が施設の正面にあるため、地域のイベントに参加させていただいている。又ボランティアの方にも多く来ていただき、レクリエーションなども共同で実施している。	自治会に加入し、地域行事の参加や、地区の子供たちとの交流も行われ、散歩時に近隣住民と挨拶を交わすなど、親しく地域とつながろうとしている。市役所の新人研修の場としての利用や福祉大学の実習生の受け入れ、ボランティアも多く訪れるなど双方向的な付き合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生や行政職員の研修・実習や民生委員の見学等積極的に受付けている。又、施設長自らが、実習担当として福祉大学校の実習指導者や講師として介護学生の育成に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議時には、グループホームで行っている活動内容やアンケート結果等を報告させていただき、委員の皆様よりいただいた意見をサービスに活かしている。	2ヶ月に1度開催され、地域・行政・家族等が構成委員となり、活発な意見交換が行われている。アンケート結果、要望や苦情、その対応状況、夕食の試食会などありのままの事業運営が透明性を持って議題として提出されている。今後の課題としては主役である利用者の参加、議事録の公表を望みます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者や広域連合の担当職員と、必要に応じて細かい連絡を取っている。そのため、市役所の新人研修の研修施設として、提供している。	広域連合の事業所連絡会に出席したり、機会ある毎に市の担当者との連絡を行い、事業所の現状を理解してもらえよう努めたり、地域のニーズを把握したりして良好な協力関係を築いている。介護相談員の派遣事業への協力も行い、年3回の受け入れを行った。	

外部評価結果(グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会を中心に、拘束廃止に取り組んでいるが、施錠についてはまだ取り組めていない。	運営規程や契約書等に「身体拘束をしないケアの実践」を明文化し、拘束委員会でも検討し、抑圧感のない暮らしを支援するよう努めている。各ユニットの玄関は施錠されているが、利用者の思いにそって、いつでも外出できる対応をするとともに見守りや連携プレーを大切にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	他施設で行われた虐待例を挙げ、職員に周知している。又、日々の業務の中でも虐待が見過ごされることがないように、スタッフへ周知し、虐待予防に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護等を学ぶ機会はまだまだなく、管理者・職員ともに今後、理解を深めるために、勉強会などの学ぶ機会を設ける必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけ、利用者・家族が納得できるよう十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に苦情・要望受付箱を設置し、苦情等があった場合には、改善案を話し合い、回答を掲示している。 1年に1度、ご利用者様満足度調査アンケートを実施し、アンケートについての回答も掲示している。	苦情受付箱、満足度調査など利用者やご家族の思いや意見を伺う環境を作り、意見には速やかに検討・対応し、結果の掲示も行っている。法人全体の「かりん新聞」を毎月、複合施設独自の通信を隔月に発行し、利用者の日頃の暮らしの様子を伝えている。又、面会時や電話などで利用者の様子を話し、ご家族の安心を得るよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回施設長がスタッフの面談を行い、意見や悩み事を聞いている。また、月1回行われる勉強会にも参加し、職員の思いを聞いている。	施設長との年1回の個人面談や毎月行われる勉強会を通じて職員の思いや意見を聞いている。管理者は職員の様子を見ながら意見や悩みを聞くよう努めている。 2ヶ月に1度行われる幹部会議で職員の努力や実績を評価して、やりがいや向上心を引き出す工夫もしている。22年度からは職員が目標を設定して、その達成状況を確認するための気付きやアイデアが活かされる環境を作ろうとしている。	

外部評価結果(グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回、幹部会議を開き、営業実績の報告を行い、口答ではあるが努力や実績を評価している。 又、パート職員から正社員への昇格もやっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で行う、施設内研修や複合施設で行う研修を立案し、職員教育には力を入れている。 又、外部研修にも参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人での交流会があるが、他施設で運営されているグループホームとは交流が少ない。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人との面談を必ず行い、困っていること、不安なことを聞くように努めている。又、入居後も話をしやすい雰囲気を作り、本人の不安軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と必ず面談を行い、今困っている事を聞き、入居後の対応について相談している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には、利用者・家族が当事業所を必ず見学していただくようにしている。又本人がその時暮らしている所での面談を行い、当事業所での対応が可能か判定会議を経て入居していただいている。		

外部評価結果(グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の生活歴や得意なことが発揮できるよう努めており、調理などの場面では、職員が教えていただくという姿勢を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで、日常生活の様子を細かく家人に伝えるようにし、面会時には、ゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人とのコミュニケーションや家族の情報の中から、馴染みの場や人の理解を深め、継続した付き合いが出来るよう努力している。友人等の面会があった際には、また来ていただけるよう、職員が声をかけるようにしている。	友人や近所の人との面会があったり、ご家族による墓参り、職員の付き添いによる買い物や外食等も行われ、これまでの暮らしの継続性を維持していくよう支援している。手紙や年賀状の支援もしているが、返事を出さない利用者も居る。ご家族の了解を得ながら、職員の援助(写真等の活用)により、これまでの付き合いを繋げるよう支援することも一考かと思われる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間でのトラブルにならないよう配慮を考慮したり、コミュニケーションの間に職員が介入するなど、孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動された方へ手紙を書いたり、家族に近況を伺うなど連絡をとっている。退居時にはこちらでの生活の様子を伝え、困ったことがあれば相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、本人の希望を聞き出す努力をしている。希望に沿えるよう職員で話し合い、実現に向けてよう努力している。	フェイスシートにより利用者の生活歴や趣味、得意分野を把握し、日々の関わりの中や話し易い雰囲気作りをしながら、思いや意向を聞き出すよう努めている。モップ拭き、縫物、座布団作りなど利用者の力が発揮できるようなことを見つけて、その人らしい生活が送れるよう支援している。	

外部評価結果(グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談の中で本人の生活歴・趣味・今までのサービス利用の経過など必ず聞き、本人の力が発揮できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録をの中から、また申し送りの中から職員間で情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の変化がある時にはカンファレンスを適宜開き、介護計画の見直しを行うようにしている。家族との話し合いの場が少ないので、今後は家族カンファレンスを多く持ち、職員の一方的な計画にならないようにしていきたい。	センター方式を活用して課題分析を行い、カンファレンスを通じて計画作成担当者が介護計画を作成している。プランも3~4項目と、実現可能で職員が共有しやすい数としている。利用者の担当職員が中心となり、月に1度実施状況の把握をし、3か月に1度モニタリング・評価が丁寧に行われ、介護計画の見直しをしている。変化のある時はその都度カンファレンスを行い、臨機応変の見直しをし、現状に即した計画となっている。ご家族等の思いや意向を、さらに加えた介護計画作りを目指している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を大切に職員間の情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族のニーズに応じて、通院介助・送迎に応じている。訪問リハビリを受けている方もいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	広域職員・市町村職員・民生委員・ボランティアの方とは、運営推進会議を通じて情報交換を行っている。近くに図書館があるため、出かけることも多い。		

外部評価結果(グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の希望するかかりつけ医に、受診・往診できるよう努めている。必要時には受診の付添にも対応している。	利用者やご家族の希望するかかりつけ医となっており、受診の付き添いは基本的にはご家族となっているが、職員が代行したり、往診対応することもある。22年度中には医療連携体制も整える計画である。法人内に歯科衛生士がおり、協力医療機関も近くにあり、適切な医療の受けられる環境が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、状態変化や体調変化は看護職に報告・相談するようにしている。介護職が小さな変化に気づけるよう観察のポイントなど、看護職より指導している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはこちらの生活の様子を病院へ必ず知らせ、退院後も極力同じ生活が送れるよう、依頼している。退院に向けた話し合いを医師・看護師・家族・管理者で必ず持つようにしている。入院中の様子は家族連絡や面会を通じて把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所が今できる対応について説明を行っている。又、現在重度化指針を作成中。	現在、重度化に向けた対応の指針を作成中であり、終末期については、医師等の協力支援体制が整わないので、検討中である。ご家族には事業所の現状を説明してある。	重度化や終末期の対応は利用者、ご家族、これから利用しようとしている方にとって大きな関心事である。事業所としてどんなグループホームにしていきたいのかを十分に検討し、事業所として出来ること、出来ないこと、医師等の支援体制、職員体制(力量)、ご家族の協力等を精査して現段階での事業所の重度化への対応の姿勢を示すことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時のオリエンテーションで看護師から緊急時の対応について学ぶ時間を設けている。また研修会の中でも緊急時の対応について学ぶようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と水防訓練を実施している。入社時のオリエンテーション・勉強会でも防災について学ぶ機会を設けている。地域との協力は運営推進会議で依頼している。	災害対策マニュアル、スプリンクラー等の防災設備、年2回(昼・夜想定)の避難訓練、年1回の水防訓練、消火器や消火栓の取り扱い訓練など防災への備えは充分に出来ている。さらに複合施設全体で夜間は5名の夜勤者、近くには同法人経営の老健、地域の協力もあり、協力支援体制も整っている。	2ユニットのグループホームが複合福祉施設の3階にあり、避難は外階段の利用となり、利用者にとっては困難が多い。消防署と十分に話し合い、災害時に適確に避難誘導できる方法を検討し、職員が安心して、自信を持って業務に専念できるようになることを期待します。なお、非常口の段差の解消を望みます。

外部評価結果(グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は人生の先輩であるということをも前提に一人ひとりの尊厳を守り、声掛け・対応には注意を払っている。 職員入社時には、守秘義務について説明、同意を得ている。	運営規程や契約書に守秘義務を明文化し、職員の意識の共有化を徹底し、個人の書類は鍵の掛かる保管庫に収納している。利用者の生活スタイルを尊重しながら、言葉かけに温かさを感じられるよう努めている。日頃の職員の言動については管理者がチェックするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出かける場所や食べたいものなど、職員の一時的なものにならない様、自己決定・自己選択の場面を設けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課は決まっているが、食事の時間や入浴時間など本人の希望になるべく沿えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時に衣類の選択や外出時の化粧など、本人の生活スタイルを尊重し、対応している。 訪問美容師により、カラーやパーマなどの希望にも応えられるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・片づけは利用者と一緒にやっている。嫌いなものについては調理法を変え、少しでも食べていただけるよう努力している。 職員も同じメニューの食事を一緒にとることで、食卓の雰囲気づくりに努めている。	台所は利用者が手伝うには若干狭いが、調理・盛り付け等は工夫しながら、出来る範囲で職員と共に行っている。献立は複合施設の管理栄養士が作成し、食材も発注し、調理は事業所で行っている。利用者の希望する献立は、給食委員会を通じて取り入れるようにしている。全国の郷土食、鍋・プレート、手作りおやつシリーズと多彩な献立をしており、食事を楽しめるよう工夫されている。又、歯科衛生士に相談や指導を受けられる体制があり、楽しく食事の出来る側面も出来ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは管理栄養士に作成していただき、栄養バランスのとれた食事の提供が行われている。又、利用者の希望も取り入れてもらえるよう、委員会の中で提案している。		

外部評価結果(グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔内の状態・ケア方法を歯科衛生士と相談しながら、一覧にまとめ、統一した口腔ケアが行えるよう努めている。一日一回は口腔内を確認し、異常時には歯科衛生士と相談し、歯科受診などの対応が早期にできるよう努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、個々の排泄パターンの把握に役立てている。排泄パターンをもとに自尊心を傷つけないようさりげない誘導を心掛けている。	「トイレで排泄する。」ことを大切なケアと位置付け、排泄に関しての羞恥心や不安を軽減する配慮をしながら、排泄パターンにそった、トイレ誘導や声掛けをして、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操・水分補給に努めている。なるべく下剤に頼らない様、オリゴ糖の使用など個々に合わせた対応を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を優先し、曜日などは決めず対応している。土地柄、大きなお風呂を好む方には、大浴場での入浴も行っている。ただし、早朝・夜間入浴は行えていない。	希望により、何時でも(実績としては、1人週2~3回、1日3~4人)入浴できる態勢となっており、リフトも使える個浴利用を基本とし、複合施設のデイサービスの大浴場を利用する方も居る。入浴拒否者も居るが、介護計画に盛り込みながら、声掛けなどの工夫をして対応している。干したみかん、リンゴ、ゆず湯などの季節感のある楽しみも取り入れている。浴室は広く、明るい季節によっては寒さを感じることもある。広い壁面を入浴が楽しめるよう工夫されることを望みます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡など本人の生活習慣に合わせて対応している。 寝付けない方には、職員と一緒に温かい飲み物を飲み、話相手になる等の工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬のファイル・お薬手帳の作成をし、全職員が確認できるようにしている。 内服薬の変更時には、注意点・観察点など看護職より説明してもらい、介護職は観察点を看護職へ報告するようにしている。		

外部評価結果(グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や特技を活かした、余暇時間が過ごせるよう努めている。 全体としては季節を感じていただけるよう、季節に合わせた行事を大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会を多く持てるよう心掛けている。外出報告書を作成し、行先や参加者が偏らない様にしている。 個々の希望に応じて、1対1での外食の機会などを増やしていきたい。	毎日でも外出したい利用者も居るので、外出報告書を作成して、偏りのない工夫をしている。職員の配置もあるが、全ての希望を実現することは難しいため、花見、いちご・りんご・紅葉狩り、観光地などへの外出、事業所周辺の散歩など気分転換や五感の刺激となる機会が多くなるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて、少額のお金を持っている方もいる。事業所で管理している方も、買い物の際には、今まで使っていたお財布から、自分で支払うようにしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話がかけられるよう配慮している。携帯電話の使用をしている方もいる。 手紙が来た時には、本人と相談し、返事が書けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	刺激になるような音や光などはないが、生活感に欠けるところがある。利用者が作成した季節ごとの装飾品や植物を置き、季節感を出すよう工夫している。	居間兼食堂は若干狭いが、採光や窓からの景色も良く、壁には利用者の作品や複合施設の通信が飾られ、一体のフロアとなっている台所の音や匂いが感じられ、落ち着いた暮らしの雰囲気伝わってきた。食事中は、テレビで話題作りをするユニットと、BGMが流れ昔話を中心に終わりそうもない会話を楽しむユニットと、それぞれにゆったりとした時間を過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースで、1人になれるような場所がないため、居室でくつろいでいただけるように、テーブルとイスを用意している。		

外部評価結果(グループホームかりん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・タンスは備え付けのものがあるが、入居時には使い慣れたものがあれば持ってくるようにお話している。	ベッド、タンス、椅子、テーブルが事業所で準備した物であるが、利用者のご家族で自由な部屋作りをするよう話してある。多くの利用者は、そのまま備え付けの物を使用していた。馴染みの物として、仏壇、写真、時計、テレビ、飾り物等を持ち込み、自分らしく、居心地よく過ごせるよう配置されていた。居室は広く、採光も良く、窓からは高島城も眺められ、清掃もよく行き届いていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には名前の書かれた表札を貼ったり、トイレの表示を大きくするなど、1人でも迷わずに行きたい場所に行けるよう工夫している。		